

「みらい」の後継となる北極域研究船の母港について

むつ市は、津軽海峡と陸奥湾に抱かれた、海の恵み豊かな環境にあります。また、海上自衛隊大湊地方総監部や旧原子力船「むつ」の母港と共に、海との深い関わりを持って発展を続けてきました。

そのような中、当市の関根浜港を母港として、1997年に原子力船「むつ」から生まれ変わった海洋地球研究船「みらい」が就航し、国際的にも高い研究成果を挙げていることは、母港の所在地としても誇りに思うところです。

昨年、就航から20周年という節目を迎え、「みらい」の一般公開や記念講演を通じ、地域住民の海洋研究への関心が、一層高まりました。

「みらい」の母港である当市には、海洋研究開発機構むつ研究所をはじめ、日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所、日本原子力研究開発機構青森研究開発センター及び日本分析センターむつ分析化学研究所が立地しており、海洋研究関連施設の集積が図られています。

当市の将来像を見据えた、「むつ市総合経営計画」においても、海洋科学研究拠点として研究活動環境の充実を目指すこととしており、その実現に向け積極的に取り組んでまいります。

私ども、むつ市議会といたしましては、むつ市とJAMSTECの皆様、本州最北の地での研究活動と共に発展するため、必要な努力は惜しみません。

このほど、平成30年度から北極域研究船の建造に着手するとの報道がありました。これまでの「みらい」の母港としての実績と、海洋研究関連施設が整備されていることを踏まえ、当市を北極域研究船の母港の候補地として、念頭に置いていただきますよう要望いたします。

平成30年2月8日

国立研究開発法人海洋研究開発機構
理事長 平 朝彦 様

むつ市議会議員 白井 二郎